

7. 研究の責任者とお問い合わせ先

この研究は、国立がん研究センターがん研究開発費による「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」として、国立がん研究センターが事務局を担当し、該当する全国11保健所の所長、国立循環器病研究センターや大学・研究機関に所属する研究者などにより研究班を組織し、お住まいの市区町村の協力のもとに実施しています。班主任(研究代表者)は、国立がん研究センターがん予防・検診研究センター予防研究部長 津金昌一郎です。

この研究について、何か不明な点や疑問などがある場合は、以下の連絡先に、お気軽にお問い合わせ・お申し出下さい。

多目的コホート研究事務局
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
独立行政法人 国立がん研究センター
がん予防・検診研究センター
予防研究部内
TEL : 03 (3542) 2511 (内線 3392)
FAX : 03 (3547) 8580
E-mail : jphcadmin@ml.res.ncc.go.jp

または、

秋田県横手保健所
秋田県平鹿地域振興局 福祉環境部
健康・予防課 健康・予防班
〒013-8503 秋田県横手市旭川一丁目3番46号
TEL 0182-32-4005 FAX 0182-32-3389

多目的コホート研究

— これからの計画についてのお知らせ —

国立がん研究センター がん研究開発費*
「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つ
エビデンスの構築に関する研究」班主任 津金 昌一郎
(国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 予防研究部長)

*平成元年度～21年度までは厚生労働省がん研究助成金

皆様方におかれましては、平成2年より実施してまいりました「多目的コホート研究」に、ご協力下さいましてありがとうございます。この度、平成21年末をもちまして、本研究は追跡20年間を経過いたしました。その間、3回に及んだ詳細な生活習慣調査を実施いたしました。そのアンケートには、住民の約95%の方々にご回答を頂くことが出来ました。そのおかげをもちまして、研究の成果も着々と出てくるようになりました。

がんや循環器疾患をはじめとする様々な生活習慣病は、日頃の生活習慣と密接に関係し、何年もの長い間の積み重ねの結果として発症します。また、高齢化社会を迎えた今日、老化に伴う疾病発症や健康状況と生活習慣との関係について明らかにし、さらなる研究成果をあげるために、今後約10年間(平成31年末まで)の計画で、皆様方の健康状態について調査を継続してゆきたいと考えています。

今後の研究の趣旨や予定などを以下の1～7に説明させていただきます。是非ご一読の上、この研究の趣旨をご理解頂き、引き続きご協力下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. 目的と方法 *同封のパンフレットをご参照ください

がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病などの病気(これらを総称して生活習慣病といいます)の発生には、食生活、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関わっており、生活習慣の改善によって、これらの病気の発生はある程度未然に防げるものと考えられています。しかしながら、様々な健康情報が氾濫する一方、十分な科学的根拠のもとに、皆様方にお勧め出来る予防法は、極めて限られているのが現状です。多目的コホート研究は、これら生活習慣病の科学的な予防法を明らかにすることを目的に研究を行っています。

そのために、これまで、平成2年、7年、12年の3回にわたって、皆様方に生活習慣などに

ついでアンケート調査をお願いしました。また、平成2年と7年の住民健診を受診された方々には、健康診断の結果や血液の提供をお願いしました。そして、平成2年以降に亡くなられた方や病気になられた方々を把握し、それをアンケート調査の結果などと組み合わせ、「どのような生活習慣をなさっている方々が、病気になりやすいのか？あるいは、なりにくいのか？」についての分析を進めています。

研究の対象とさせて頂いているのは、平成元年の12月末に、該当する市町村に住民登録をしておられた昭和5年から昭和24年生まれであるすべての住民の方々です。

2. これまでの研究成果の貢献

これまでの研究により、さまざまな生活習慣が、がんや循環器疾患などの病気にどのような影響を与えているのかを明らかにしてきました。これまでに、飲酒や喫煙・受動喫煙、さまざまな食品や栄養素の摂取、血液データ、社会心理学的要因などと、死亡、がん、脳卒中・心筋梗塞、糖尿病、歯や目の病気、骨折などとの関連を分析して発表しています。

これらの成果は、日本人を対象におこなった研究の結果として、わが国における様々な生活習慣病対策のための基礎データとして活用されています。

例えば、科学的根拠に基づくがん予防のために、国立がん研究センターを中心にまとめられた「日本人のためのがん予防法—現状において日本人に推奨できる科学的根拠に基づくがん予防法（http://ganjoho.ncc.go.jp/public/pre_scr/prevention/index.html）」には、多くの多目的コホート研究の結果が反映されています。

3. 今後の予定

皆様方の健康状態を確認するために、病気の発生状況などについての調査を継続させていただきます。

- ① ご住所の確認などのために、市区町村の許可のもとに住民票を照会させていただきます。
- ② 万が一、亡くなられた場合は、厚生労働省の許可のもとに、死亡届およびそれに添付された死亡診断書の内容を照会させていただきます。
- ③ がんで医療機関にかかれた場合は、医療機関などの了解のもとに診断内容を参照させて頂くことがあります。

以上の三つの作業は、多目的コホート研究の担当者が、所定の手続きのもとに、皆様の情報を適正に取り扱うことを確認した上で実施いたしますので、皆様方の手を直接わずらわせることはありません。

4. あなたのプライバシー（個人情報）は守ります

上記の調査はいずれも、多目的コホート研究の担当者が責任を持って実施いたします。また、得られた皆様の記録や情報の管理には、氏名・住所・生年月日などの個人が特定される情報を別個に管理することを始め、万全の体制のもとに専任のデータ管理者があたります。

まず最も基本的かつ重要な決まりごととして、得られた情報は研究の目的以外に一切使用することはありません。加えて、この研究では約14万人という多くの方々の情報を、個人を特定出来る情報とは切り離して、まとめて(集団として)分析し、その結果を学会や論文で公表致しますので、あなたのお名前がわかることは、決してありません。

なお、以上の個人情報保護については、医師である研究者・保健所長に対しては刑法第134条により、公務員その他の研究従事者に対しては国家公務員法第100条・地方公務員法第34条、独立行政法人通則法第54条、国立大学法人法第18条等により、罰則を伴う守秘義務として定められています。

5. 研究成果はホームページで公表してします

研究から得られた成果は、ホームページ(<http://epi.ncc.go.jp/jphc/>)で公表しています。

私たちは、あなたご自身や次世代の子供達にとって健康の向上に役立つ、生活習慣病の予防知識を得ることを目標に、研究を進めています。研究で得られた有用な予防法を、あなたの普段の生活に活かして頂くことによって、あなた自身やお子様達の健康の維持・増進にも役立つものと期待しています。

6. 倫理審査委員会の承認を受けました

以上、1から5でご説明した研究の計画は、国立がん研究センターが設置する倫理審査委員会にて、

- ◆ 研究対象になっている皆さんの不利益にならないか、
- ◆ 目的や方法が科学的に妥当であるか、
- ◆ その成果が国民の公衆衛生の向上および健康の増進に寄与し得るものか、

などの点について、審査され、承認を受けました。

なお、この倫理審査委員会は、医学研究者や国立がん研究センター職員以外にも、法律家や一般の方等により構成されており、第三者機関としての役割を果たしています。

多目的コホート研究

秋田県横手保健所管内にお住まいの対象者の皆様へ

まずは、3月11日に発生した東北関東大震災、それによる津波で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様やご家族にお見舞いを申し上げます。

秋田県横手地区の被害は最小限にとどまったと聞いておりますが、報道を通じて知る近県沿岸部の被害は想像を絶する規模であり、避難者の受け入れなど被災地援助の第一線としての活動は長期にわたるものになろうと懸念しております。まだ寒さが厳しい時期の停電や物資不足等により、皆様方の非常時のご心労と日々の緊張はいかほどかと案じております。

このような折ではございますが、20年目を迎えた多目的コホート研究の対象者の皆様に、今後の研究計画をご案内するニュースレターをお届け致します。

私ども多目的コホート研究グループでも、この大震災によって被害を受けた東北地方のライフラインや輸送路の一日も早い復旧、復興をお祈りしております。この研究は、日本人が生活習慣病にならずに寿命を全うするための材料を基礎から形作ろうとして始まりました。長年にわたって積み上げられたデータをもとにした研究の成果を、これからも皆様と分かちあえることを祈念しております。

それでは、とりいそぎ書面にてお見舞い申し上げ、今後の秋田県横手市の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

2011年3月16日

多目的コホート研究 班主任
(独) 国立がん研究センター 予防研究部 部長
津金昌一郎